

NPO法人メイアイヘルプユー会報

今年度は事業を広げる・発展させる取り組み
を検討します

あけましておめでとうございます。

東京は穏やかな新年ですが、みなさんの地域はいかがですか。

私は相も変わらず、事務所で、第三者評価の報告書作成に取り組んでいます。

報告書を書きだしてもう7年ほどになりますが、だんだんと時間がかかるようになっていきます。その理由は、訪問調査終了後すぐに書かないために聞き取った内容を忘れていたためもありますが、もしかしたら第一の理由は他にあるような気がしています。それは、判断・評価にあたり事業者の取り組み、個別性をしっかり、深く理解することにとらわれ、そこに至るために時間がかかってしまうのです。成長のプロセスとして当然のことかもしれないと思うのですが、いいわけでしょうか。難しい第三者評価に今年も取り組んでゆきます。

今年度(昨年11月)の総会では、中・長期計画を出せませんでした。考えていることがあるので第三者評価が落ち着いた後、4月以降に積極的に情報収集をし、企画を提案する予定です。会員の皆さんの協力を得ることになりますのでよろしくお願いします。

今年は、会報担当(編集長)として理事の要さんが加わりました。事業の透明性と情報提供がさらに充実していくことを期待しています。会報を楽しみにしてください。

2010年1月 代表理事 新津 ふみ子

総会報告

平成21年度のメイアイヘルプユー総会を、11月27日午後6時から開催しました。当日の出席人数は13名、委任状による書面表決数54名の計67名(正会員数101名)で、総会成立の過半数の人数を得て全ての議案が承認されました。審議内容は、会員の皆様に既にお知らせしております以下の内容です。発足して10年目で始めて法人税を支払う決算状況になっています。これらにとくに付け加わるものもなく総会は終了しました。

審議事項

1. 平成20年度事業報告案および平成20年度収支報告案について
2. 平成21年度事業報告案および平成21年度予算案について
3. 平成21年度役員体制について

理事会開催から総会の承認を得て、新たな年度の活動を開始しました。昨年度にも増して、現場の応援団になる活動を目指してまいります。今後とも会員の皆さまの積極的なご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局長 鳥海 房枝

23号の
ガイド

- 1P ・今年度は事業を広げる発展させる取り組みを検討します
・総会報告
2P ・事業報告(調査研究・第三者評価・事務局だより、ほか)
3P ・自主勉強会レポート(ニュージーランド研修報告)
・自主勉強会のお知らせ
・利用者さんのこころ模様

- 4P ・各地の情報 新潟県
・新人紹介
・編集後記



◆「厚生福祉」(第5683号)の巻頭言「高齢者の医療費」を執筆者の齋藤芳雄さんからいただきましたので会報に同封します。(編)

事業報告

調査研究に関する事業

宮崎県高原町からの受託事業「介護費用適正化事業における居宅支援事業者適正化事業」は、3年目になります。昨年度までは、高原町の居宅介護支援事業者と介護支援専門員を対象とし、主としてケアプランの作成に関する支援をしてきました。今年度からは、居宅サービス事業所も対象とし、サービス担当者会議の充実を課題とした事例研究に取り組みました。地域の福祉力を強くする取り組みとして、手ごたえを感じています。この事業の担当は居宅介護支援サービスの経験があり、現在福祉系大学の教員である高野さんと新津が担当しています。

(新津ふみ子)

第三者評価事業

21年4月から22年3月までの第三者評価は東京都関係事業所23、岡山・千葉・鳥取・静岡の各県にある都外事業所13と契約をしています。東京都関係の評価の多くは3月の締め切りを前に目下進行中ですが、都外のものとは殆ど終了しています。都外評価の内9事業所は岡山県にある同一法人障害系事業所で、12月には現職員・22年度採用職員その他、保護者会・他事業所・関係機関等を含めて80名の方々を前にした結果報告では、実施した各事業所からも率直な感想と改善への決意表明があり、「情報開示」の進んだ取り組みに臨場して、評価者としての責任を実感しました。報告会には新津・要が出席しています。

(要 厚子)

特別養護老人ホームにおける利用者の

大腿骨頸部骨折予防研究会

「メイアイ便り」や総会議案で本研究会の主旨、そして昨年の実績と今年度の予定などをお知らせしました。その進捗状況を簡単にご報告いたします。研究会は予定通り順調に進み、現在、10人の委員が所属する17施設へワーキング部会の委員(新津・鳥海・都合のつく委員)が訪問し、現場の職員と大腿骨頸部骨折既往者の事例検討を行っているところです。この現地訪問による事例検討は年内に5箇所、来年2月末に全施設を終える予定です。あくまで中間報告ですが事例検討では、なぜ骨折事故に至ったのかについて、利用者本人の状況や環境などまで幅広く検討しております。結果として、現場に役立つものにつなげられそうな感触をもっているところです。

(鳥海 房枝)

事務局だより

例年、この時期の事務局は第三者評価の職員自己評価や利用者調査の集計(入力)、発送、報告書の校閲、仕上げなどで追われますが、今年は東京都関係事業所評価の報告書がずれ込んでいる関係もあって、嵐の前の静けさと言ったところです。

事務局には新津代表と事務局長鳥海の他、評価責任者の北村さんと要さんがときどき顔を出し、常勤職員の増田さんと経理担当の土川さん、評価繁忙期の助っ人石井さん、荒木さんによって支えられています。(事務局長)

1月の事務所の動き(抜粋)

- ♪1月4日:仕事始め
- ♪1月14日:ヒヤリハットについて検討
- ♪1月17日:Bグループホーム合議
- ♪1月18日:Yグループホーム合議
- ♪1月21日:B特養打ち合わせ
- ♪1月25日:Mグループホーム報告書打ち合わせ
- ♪1月30日:評価責任者会議・運営会議
- ♪1月31日U保育園合議

代表理事・事務局長は評価、調査研究事業、講演等々、相変わらず全国を八双飛び。在京時、必ず事務所へ。留守部隊は、評価データ集計、資料複写と郵送手続き、税金申告準備、謝金の支払い、会報発送など。1月下旬から評価報告書校閲、集中の予定。(事務局長)



去る11月17日、ニュージーランド研修の報告と勉強会が参加者9人で行われた。評価者として会員2年目の私も参加させていただいた。事前に知らされていた勉強会のテーマは「ニュージーランドのリタイアメントビレッジにおける第三者評価の実際」と「ニュージーランドにおけるコーディネーション(ケアマネジメント)の特徴」であった。勉強会は新津代表のニュージーランドはどんな国?からはじまり、前述のテーマや「ニュージーランドの社会保障制度や社会福祉」、「高齢者の実態と福祉について」等なども日本の現状と対比させながら話された。私は高齢者福祉等の内容にも関心があったが、新津代表が後半に述べられた乳幼児教育施設の「プレーセンター」に、より興味を覚えた。「プレーセンター」は親たちがボランティアで運営し先生役も務める、乳幼児教育施設であるという。資料によればその歴史は古く1941年に遡り、特徴は三つ挙げられている。一つは子どもの教育方針やセンターの運営方針はすべて親たちの話し合いで決める。二つ目は「プレーセンター」は子どものためばかりではなく、親が子育てに自信を持つための「親の学習プログラム」がある。三つ目は子ども自身が好き



ニュージーランド研修風景(葭田さん提供)

な遊びを満足するまで取り組むことにより、自主性や想像力、忍耐力などを伸ばしていくと考え進めるというものである。こうした特徴から私はニュージーランドの「プレーセンター」は、子どもにとってはもちろん幸せな環境であるが、親にも豊かな子育ての時間が確保されていると感じたことであった(しかも政府が時間保障等もしている)。私は長年子育て支援のプログラムに関わってきたが、この「プレーセンター」には乳幼児の教育を考える際の多くのヒントが含まれていると

※海外研修は、新津代表理事が主宰しているもう一つの事業「ケアコーディネーション研究所」が主催しています。(編集局)

思わされた。余談だが、後日の某新聞の家庭欄にもニュージーランドの「プレーセンター」が取り上げられ注目されていることが分かった。

利用者さんの こころ模様

第三者評価をとおして様々な事業所で個別支援計画のことや食事への要望、職員への要望など利用者の方々からうかがう機会があります。

ある特養で自立度の高い利用者さんが「職員は忙しそうに話す機会がない。もっと話を聞く時間をつくって欲しい」としみじみと仰っていました。その後、生活相談員さんとの話しからこの利用者さんは、一番職員への要望を積極的に言って来られ、職員としては十分にコミュニケーションしていると考えている方であることが想像されました。障害の生活施設でも自立度の高い方から同様の話を聴くことがあります。職員の目は介護量の多い方に向かざるを得ない中で、自立度の高い方のこころ模様が見落とされがちとの忠告ですかね。

(かなめのTsubone)

自主勉強会のお知らせ

テーマ 第三者評価と行政監査
~その特徴と視点の違い~
とき 2010年2月12日(金)18時~
講師 望月 隆太郎氏(会員)
会場 メイアイヘルプユ-事務所
参加費 会員500円、非会員1,000円
お申し込みは、2月8日(月)までに事務局まで
♪終了後は、恒例の懇親会でそう……

会報は、全国に住まい、ご活躍の会員のみなさんをつなげる媒体でありたいと思います。近況や活動をお知らせください。宛先は、事務局 鳥海、要。「近況報告」として、メール、ファックス、お手紙などでお寄せいただくと嬉しいです。(編集局)

暦も残す所僅かとなりました。今年は新型インフルエンザの流行など、感染症マニュアルの度々の作り直しなど、会員の皆様も多忙を極めた1年だったのではないのでしょうか。地方会員、新潟県南魚沼市からの発信です。川端康成「雪国」～トンネルを越えると～湯沢町の隣、新潟県の玄関口に位置します。塩沢コシヒカリの生産でも知られています。この時期、寒さが厳しく、3メートルの積雪も珍しくはありません。私は通所介護、訪問介護、居宅支援事業の事業管理者です。バックグラウンドは介護福祉士、社会福祉士です。会員の皆様には耳慣れない言葉と思いますが「越冬入所」この時期の施設入所のことを言います。冬季入所に伴い、在宅サービス利用者の減少が気になる季節でもあります。「稼働率アップ」常の課題は当然のことながら「サービスの質」と言う点も譲れないところです。地方ならではの降雪による送迎と訪問の困難性。中山間地域加算こんな所につかないでどんな所につけると言うのでしょうか。制度に対する疑問を感じつつ事業を行っています。最近メイアイさんの勉強会に行きたいと思いつつ参加出来ません。参加する意味は勉強のみにあらず、中央の情報、会員の皆様から頂く意欲と元気。3年前より県老人福祉施設協議会の役員で地域サービスの活性化を図るべく活動中。また、法人の職員育成を目的に研修計画と研修会の開催等、また自身の研修など忙しい日を送っています。早急の課題は何と言っても人材の育成にあります。福祉職とは、ご利用者と家族、そしてそれに関わる人、地域に育てられて成長するものと思います。地域や今まで関わらせて頂いた方々にお返しをするべく、微力ながら手がけています。今年度半期で大小8回計画と実行を致しました。「人材あつての介護～介護は人なり～」講師の皆様に指導を頂く中で、自らの知識不足や新たな課題を頂いています。何をやり遂げるにも一番大切なことは健康です。日々の健康に感謝しながら、会員の皆様の健康を願いつつ、お会いすることを楽しみに頑張りたいと思います。



メイアイヘルプユウの新人です

大坂太一さん

もう10数年前のことですが、家族でハワイ旅行に行った時のことです。どこをどう間違えたのか、レンタカーで観光客などいない現地の人が暮らしている町だか村だかに来てしまい、丁度、夕方から夜にかかる頃でもあり、どう帰ればいいのかのだろう、困ったなああと心細く思ったことがありました。

テレビの「田舎に泊まろう」みたいに、声を掛けようにも人がいないのです。娘たちはお腹が減ったと言うし。



そのとき、やっと見つけた一人の女性に、帰り道を尋ねようとしたら、先に、「May I help you?」と話しかけてくれたのです。余程、私は不安で困ったという顔をしていたのだと思います。それを瞬間にキャッチしてくれて、親切にも声を掛けてくれたのだと思います。

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-31-9 シーバード五反田401

TEL:03-3494-9033 FAX:03-3494-9032

E-mailアドレス: meiai@smile.ocn.ne.jp

HPアドレス : www12.ocn.ne.jp/~meiai

□編集後記□

「事務局長の肩の荷を少し降ろすお手伝いを」などと思いつき編集を引き受けたもののはじめてのソフトに振り回され先輩編集委員 鳥海・川崎・山本・酒井各氏のお知恵、達見を十分に生かせず、しかも遅配。次号こそは！
(かなめのTsubone)